

平成19年10月30日
住友生命保険相互会社

社会貢献事業「サンゴ礁保全プロジェクト」について

SUMISEI Coral Reef Project ~世界の海を、サンゴ礁の輝く海へ~

住友生命保険相互会社（社長 佐藤 義雄）は、平成20年1月より、地球環境面での社会貢献事業として「サンゴ礁保全プロジェクト」を実施します。

1. プロジェクト概要

本プロジェクトでは、サンゴ礁を中心とした自然環境と地域生活の両立を図る持続可能な地域づくりに取り組むNGO活動を支援します。

沖縄県石垣島白保村・フィジー諸島共和国ビチレブ島の世界2地域において、サンゴ礁の保全モデルを確立し普及する活動への支援を通じて海洋環境全体に対して貢献していきたいと考えています。

『石垣島しらほ村』プロジェクト

石垣島白保のサンゴ礁を保全するために、地元白保の人たちと共にサンゴ礁環境の保全と持続的な資源管理の仕組み作りに取り組む活動を支援します。

【提携NGO:財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)】

『フィジー ビチレブ島』プロジェクト

フィジー・ビチレブ島「コーラルコースト」のサンゴ礁を復活させるために、サンゴの増殖・植付活動や地域住民への環境意識の啓発等を通じて持続的な保全体制の確立に取り組む活動を支援します。

【提携NGO:財団法人オイスカ】

2. 事業期間・予算

- ・平成20年1月～平成23年3月
(期間終了時に取組みの状況と成果の振り返りを行い、更なる継続を検討します)
- ・総予算 6500万円(予定)

※今後、サンゴ礁の学術研究に関して日本サンゴ礁学会とも連携し、「産・学・民」一体となった幅の広い社会貢献活動に発展させることを目指します。



「知ろう、行こう、守ろう」

住友生命は「国際サンゴ礁年2008」の普及と活動の推進に協力します。

<『石垣島しらほ村』プロジェクトの概要>

(1) パートナー

財団法人世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン)

- ・設立：1971年9月22日
- ・名誉総裁：秋篠宮文仁親王殿下
- ・代表者：会長 大内照之
- ・職員数：68名（2007年10月1日現在）

(2) 活動地域

沖縄県石垣島白保村／WWF サンゴ礁保護研究センター（しらほサンゴ村）

(3) 目的および活動内容

石垣島白保の海には120種以上のサンゴ、300種以上の魚類、巨大なハマサンゴなどを有する豊かなサンゴ礁があり、中でも1987年にIUCN（国際自然保護連合）が行った調査により、ここに生息するアオサンゴ群落は北半球「最大・最古」であるとされ、学術的にみて貴重な海であることがわかっています。

また、白保の人々にとってこの海は「宝の海」「命つぎの海」と言われ、その豊かな海の恵みは、人々の生活の糧（かて）としてとても大切なものとなっています。

住友生命は、この石垣島白保のサンゴ礁を保全するために、地元白保の人たちと共にサンゴ礁環境の保全と持続的な資源管理の仕組み作りに取り組むWWFの活動を支援します。将来的には、サンゴ礁保護の白保モデルを確立し、世界のサンゴ礁保護のモデルとして発信することを目指します。



△白化した白保のサンゴ礁



△世界最大といわれる白保のアオサンゴ群落



WWFは、人と自然の共存を目指して活動する国際的な民間自然保護団体です。様々な自然保護活動を地球規模で展開する中、サンゴ礁の保全活動にも積極的に取り組んでいます。日本では沖縄県石垣島白保にWWFサンゴ礁保護研究センターを2000年に設立。人と海が調和して共存する持続的な地域づくりなどの活動を展開しています。

<http://www.wwf.or.jp>

© 1986 Panda symbol WWF ® “WWF” and “living planet” are WWF-World Wide Fund For Nature (Formerly World Wildlife Fund) Registered Trademarks

<『フィジー ビチレブ島』プロジェクトの概要>

(1) パートナー

財団法人オイスカ

- ・設立：1961年10月6日
- ・代表者：会長 中野良子
- ・職員数：108名（国内：2007年10月1日現在）

(2) 活動地域

フィジー諸島共和国ビチレブ島南西部沿岸海域

(3) 活動内容

フィジー諸島共和国ビチレブ島南西部沿岸海域は「コーラルコースト」と呼ばれ、かつては、サンゴ礁であふれた海でした。しかしながら、現在、そのサンゴ礁が失われつつあります。

住友生命は、「コーラルコースト」のサンゴ礁を復活させるために、サンゴの増殖・植付活動や地域住民への環境意識の啓発等を通じて持続的な保全体制の確立に取り組むオイスカの活動を支援します。将来的には、サンゴ礁保護のフィジーモデルを確立し、周辺国・地域へ向けて発信することを目指します。



△フィジーでのサンゴ礁植付け作業

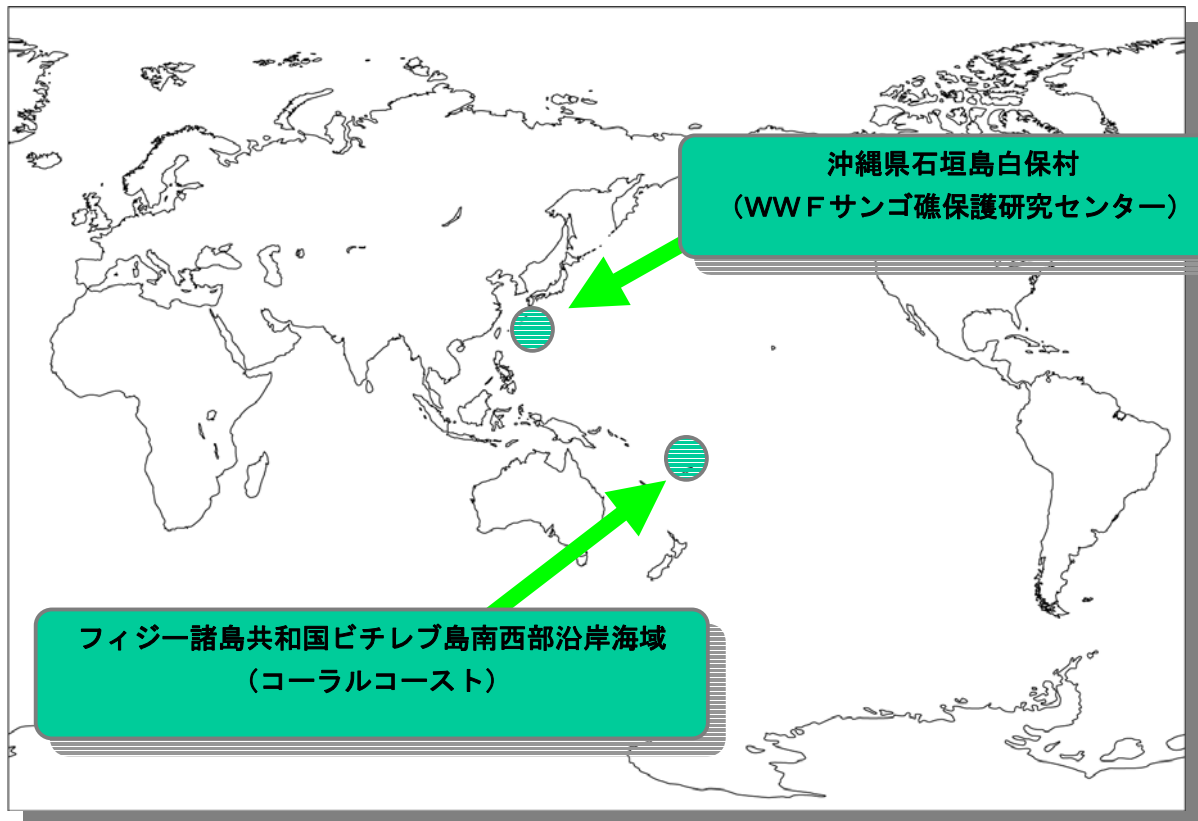


△ビチレブ島の地元住民たち



オイスカは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指す」という基本理念を持ち、主にアジア・太平洋地域での農村開発や人材育成、環境保全活動を展開する中で、フィジーでのサンゴ礁保全活動にも取り組んでいます。国内では農林業体験やセミナーの開催を通じた啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。

<http://www.oisca.org/indexj.htm>



◆サンゴ礁とは：

サンゴは樹木のように枝分かれしているものもあり、一見、植物に見えますが、実は、動物です。サンゴはイソギンチャクやクラゲの仲間で、「刺胞（しほう）動物」の一種です。古いサンゴの上に新しいサンゴが積み重なってできた地形のことを「サンゴ礁」といいます。

◆サンゴ礁の役割とは：

サンゴ礁は、海洋のすべての生体系の中で最も多様な生物の住み家となっています。そして、私たち人間にとっては、豊かな漁場、美しい景観を有する観光地、自然の防波堤として、さらには、二酸化炭素の吸収源としての役割が期待されています。

◆サンゴの白化現象とは：

サンゴの白化は、サンゴ礁を衰退させる大きな原因の一つです。サンゴの白化現象とは、サンゴが共生藻を失って、透明なサンゴ組織を通して白い骨格が透けて見え、白くなる現象です。白化したすぐ後はサンゴは生きていますが、白化した状態が長く続くと、サンゴは共生藻からの光合成生産物を受け取ることができなくなり、死んでしまいます。世界中のサンゴ礁で多発しており、日本でも沖縄県を中心に広がっています。